

アブラコウモリ生態資料

一川崎市中原区小杉陣屋町付近における一 その(1) 密度

谷口勝直*・峯岸秀雄**・木下あけみ***

(1) はじめに

昭和58年度からはじまった“市民の手による川崎市域自然調査”は、本年度でその5ケ年計画を終えるが、その間、市民ボランティアの活動は目ざましいものがあった。一般の動物を対象とする我が動物班でも多くの市民からの情報提供があって調査が行なわれたのだが、そのなかでも中原区小杉陣屋町に住まわれる谷口勝直氏は、社会人としては、永く紙型に関する技術者として活躍された方であるが、その町内のアブラコウモリについて、非常に具体的かつ詳細な観察を行ない、報告をよせられている。氏のこの町におけるアブラコウモリの生態についての調査は、すべて御自身の早朝及び日没時の町内を歩いての観察の結果であるが、各戸ごとの分布・個体数・棲所及び出入口、活動開始時刻・終了時刻・冬眠その他についての非常に具体的なものであり、恐らく我が国でも、1つの地域全体の、このような一種の動物についての悉皆調査は少ないのではないかと思われる。動物班全体の結果は、別途、全体報告書にまとめられるが、その基礎になっている、このような資料は貴重であり、別な方法でまとめて残すことにする。一回の紙面に限りがあるので、数回に分けることにし、最初は小杉陣屋町付近におけるアブラコウモリの住む家の数と分布(密度)と、どのような家に入っておるかをまとめた。今後順次、各戸ごとの個体数、その出入口、活動時刻、各年度における季節的消長、冬眠開始日及び初認日についてなどを、報告する予定である。(峯岸)

* 川崎市青少年科学館市民自然調査団

** 日本女子大附属高校

*** 川崎市青少年科学館

(2) 小杉陣屋町付近におけるアブラコウモリの生息する家について

今回の報告は、地域を、小杉陣屋町付近(南武線以北、東横線以西、等々力緑地以東)と限定した。又、図1と図2は、一枚の分布図を県道丸子中山茅ヶ崎線(中原街道)を境に南北に分けたものである。(図1、図2及び表1参照)

(谷口、木下)

(3) 考察

小杉の町には、以上のようにアブラコウモリが、ほとんど各戸にわたって住んでいるのであるが、このような町というのは、次のような条件があると考えられる。

a. 古くからの家が、ある程度密度高く集まっていること。

川崎市内でも、アブラコウモリの密度の高い場所としては、この小杉の他に、溝ノ口、稲田堤、及び登戸がある。いずれも、2階まで位の主に住宅の集まっているところで、かつ、古くから町としてあり、中になかなか古い家の混じっているところである。小杉などは、中心部に江戸時代の家さえ残っているほどである。南部の川崎駅を中心にする市街地においては、まだ調査が進んでいないが、川崎区の大師地区などでは、住宅地なのに意外に少ないのは、恐らく戦災により、一時町並みがすべて失われたことからであろうと考えられる。又、農村部又はそれが住宅地に変化した場所(高津の内部地域など)にもほとんど住んでいないのは、一定の家の密度と屋根裏への出入りを必要とし、かつ哺乳類であることが関係しているように

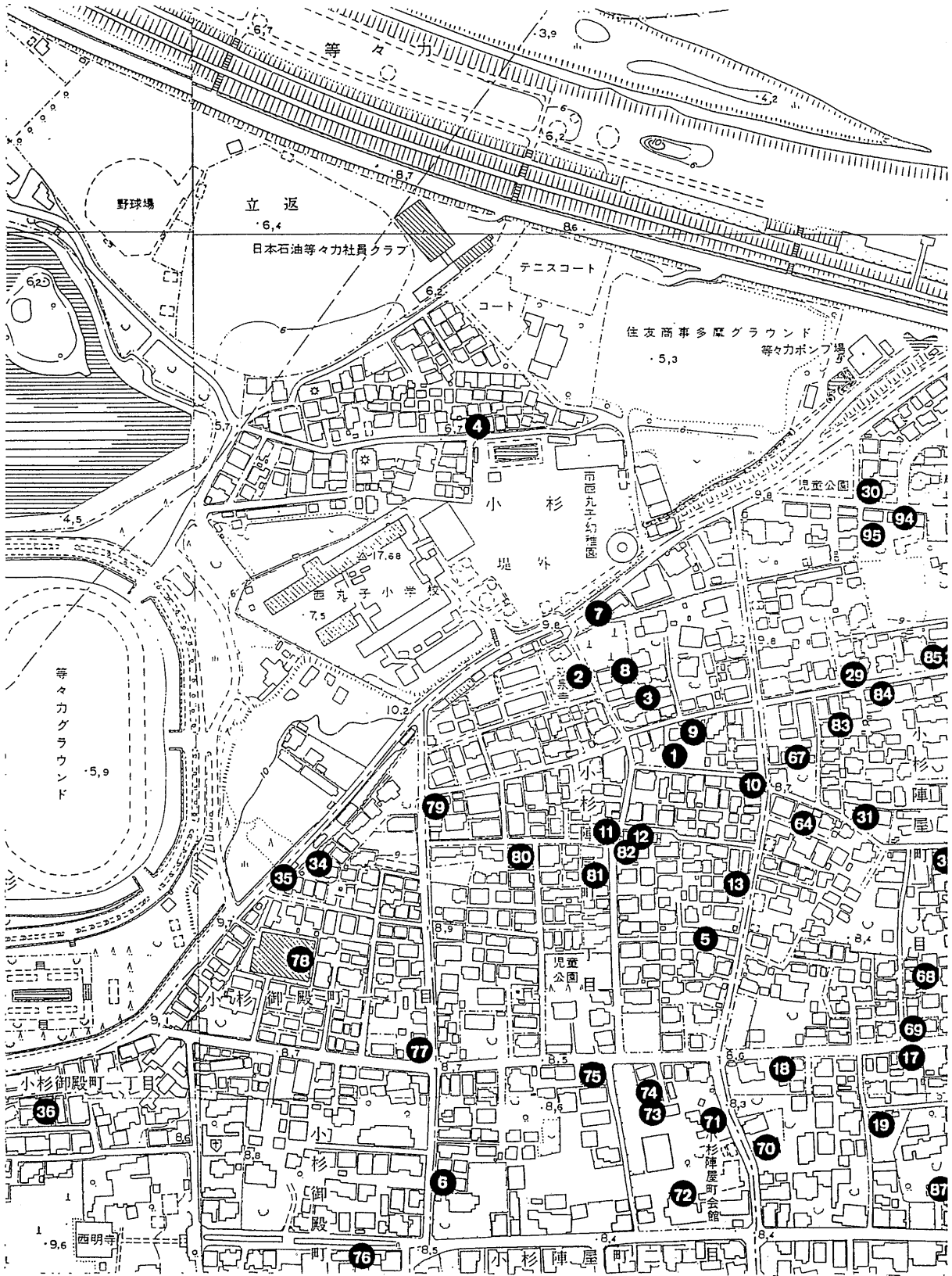
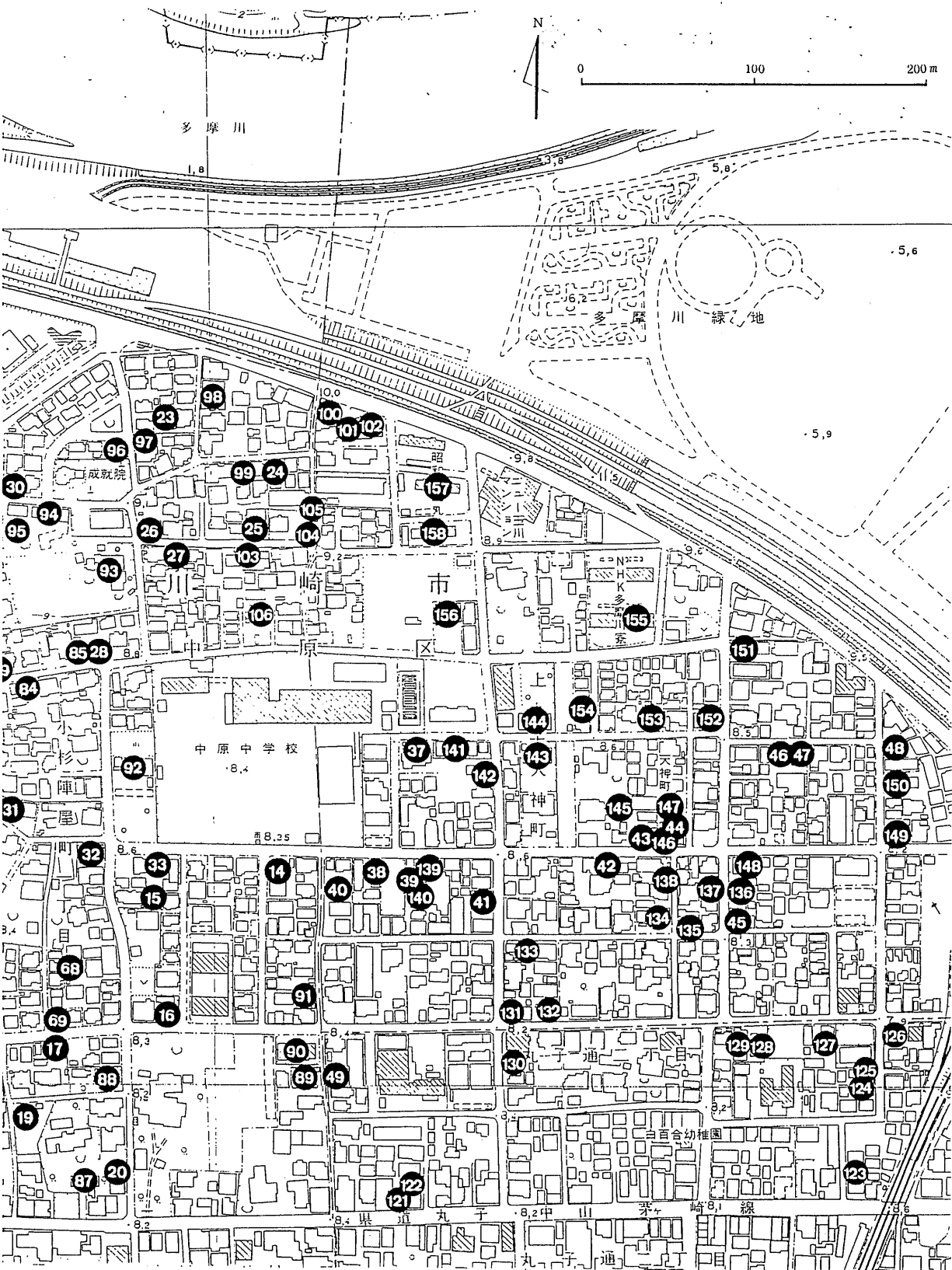


図1. アブラコウモリのすむ家 (1) (番号は、表1を参照、地図は、川崎市発行 $\frac{1}{2500}$ を使用)



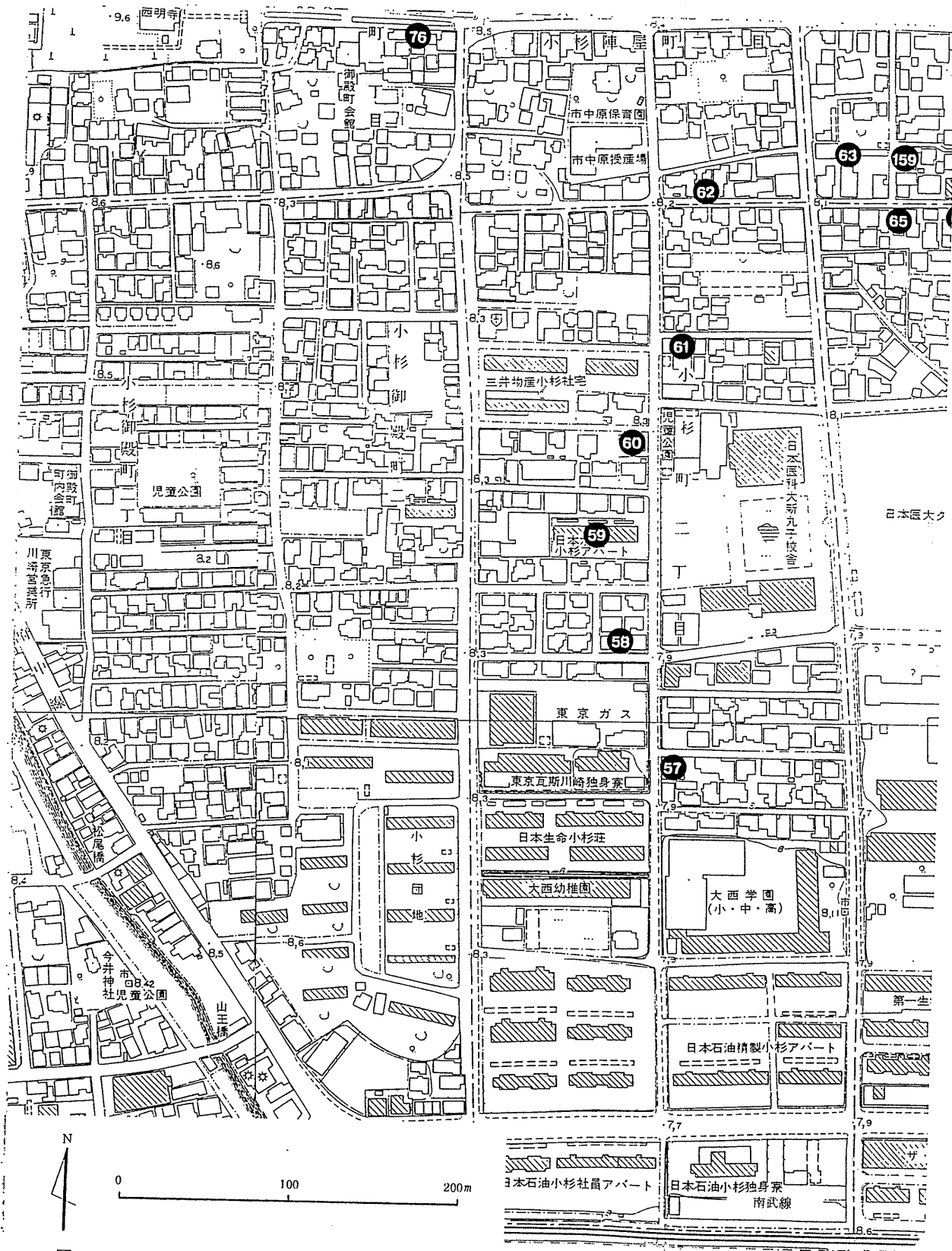


図2 アブラコウモリのすむ家 (2) (図1の南側に続く)

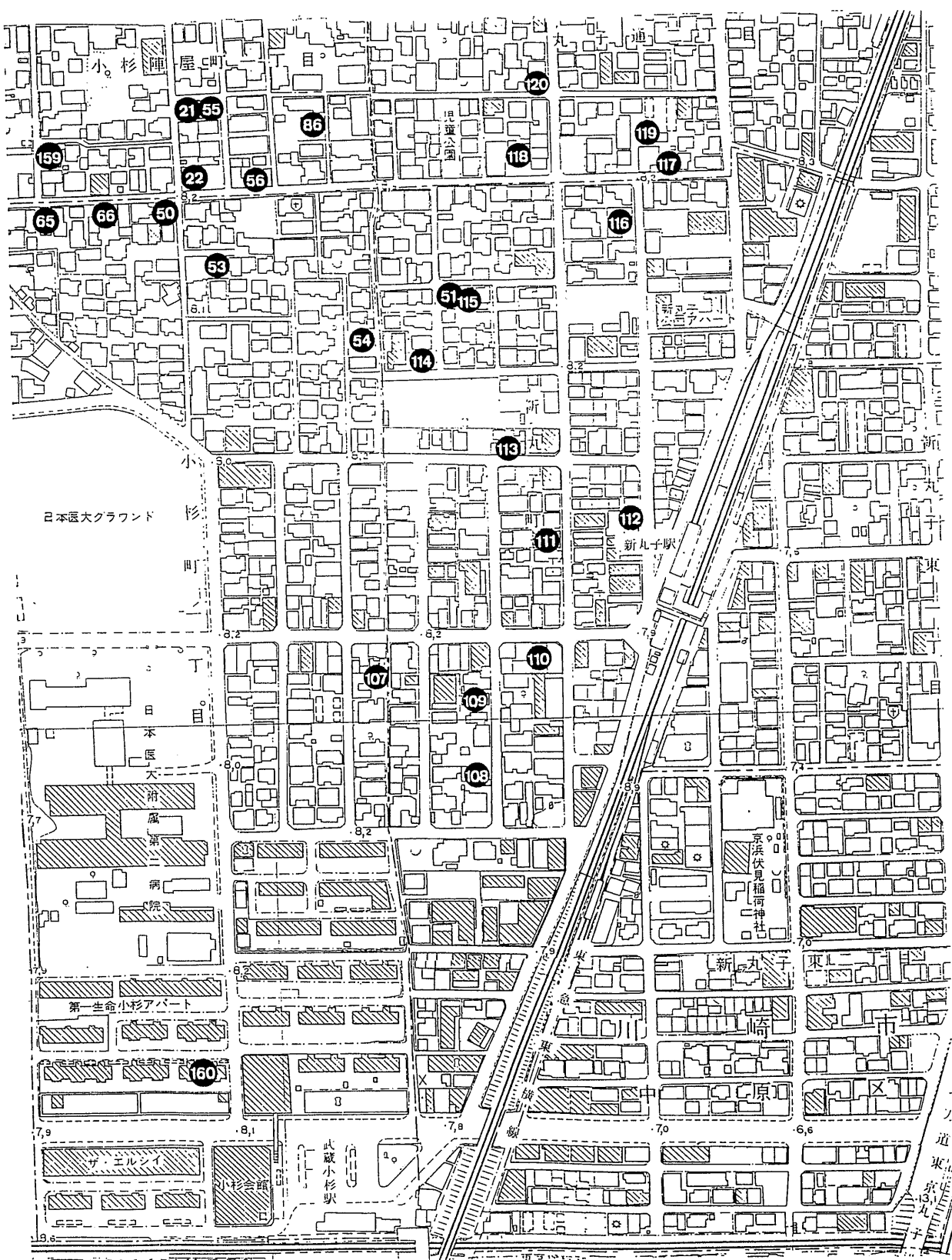


表1 アブラコウモリ ねぐら一覧表 (図1、図2参照)

番号	場 所	形 態
1	小杉陣屋町 2-748	個人住宅
2	" 2-733	共同住宅
3	" 2-689	個人住宅
4	小杉1248	"
5	小杉陣屋町 2-782	"
6	" 2-862	"
7	" 2-678	"
8	" 2-685	共同住宅
9	" 2-748	個人住宅
10	" 2-751	"
11	" 2-747	"
12	" 2-754	共同住宅
13	" 2-757	個人住宅
14	" 1-586	共同住宅
15	" 1-580	個人住宅
16	" 1-575	"
17	" 1-833	"
18	" 1-826	"
19	" 1-833	"
20	" 1-833	"
21	" 1-541	"
22	" 1-547	"
23	" 1-658	"
24	" 1-647	共同住宅
25	" 1-640	個人住宅
26	" 1-641	"
27	" 1-624	"
28	" 1-622	"
29	" 1-617	"
30	" 1-663	"
31	" 1-603	共同住宅
32	" 1-770	個人住宅
33	" 1-581	"
34	小杉御殿町 1-711	"
35	" 1-693	"
36	" 1-893	"
37	上丸子天神町 318	"
38	" 329	共同住宅
39	" 333	個人住宅
40	" 326	共同住宅

番号	場 所	形 態
41	上丸子天神町 338	共同住宅
42	" 345	個人住宅
43	" 302	"
44	" 301	"
45	" 376	共同住宅
46	" 361	個人住宅
47	" 364	共同住宅
48	" 371	個人住宅
49	丸子通 2-447	共同住宅
50	小杉町 1-358	個人住宅
51	新丸子町 721	"
52	等々力 3299	共同住宅
53	小杉町 1-557	個人住宅
54	" 1-547	共同住宅
55	小杉陣屋町 1-547	個人住宅
56	" 1-547	会 社
57	小杉町 2-291	個人住宅
58	" 2-209	"
59	" 2-207	共同住宅
60	" 2-204	個人住宅
61	" 2-309	"
62	" 2-319	"
63	小杉陣屋町 1-351	"
64	" 1-763	共同住宅
65	" 1-355	個人住宅
66	" 1-355	"
67	" 1-607	"
68	" 1-772	"
69	" 1-775	"
70	" 1-829	"
71	" 2-843	町内会館
72	" 2-848	倉 庫
73	" 2-844	共同住宅
74	" 2-844	"
75	" 2-852	"
76	小杉御殿町 1-918	"
77	" 1-812	"
78	" 1-693	合 宿 所
79	小杉陣屋町 2-724	個人住宅
80	" 2-798	共同住宅

番号	場 所	形 態
81	小杉陣屋町 2-791	共同住宅
82	" 2-785	個人住宅
83	" 1-608	"
84	" 1-599	"
85	" 1-622	"
86	" 1-547	"
87	" 1-833	長屋門
88	" 1-833	個人住宅
89	" 1-567	共同住宅
90	" 1-567	"
91	" 1-585	個人住宅
92	" 1-597	"
93	" 1-623	"
94	" 1-671	共同住宅
95	" 1-671	個人住宅
96	" 1-663	"
97	" 1-658	"
98	" 1-655	"
99	" 1-645	"
100	上丸子天神町 5 5	"
101	" 5 5	"
102	" 5 4	"
103	小杉陣屋町 1-630	"
104	" 1-638	"
105	" 1-638	"
106	" 1-634	"
107	小杉町 1-523	専門学校
108	新丸子 758	個人住宅
109	" 762	"
110	" 769	"
111	" 745	"
112	" 739	"
113	" 729	"
114	" 720	"
115	" 721	"
116	" 691	"
117	丸子通 2-682	"
118	" 2-705	"
119	" 2-682	共同住宅
120	" 2-703	個人住宅
121	" 2-446	"

番号	場 所	形 態
122	丸子通 2-444	個人住宅
123	" 2-458	"
124	" 2-425	"
125	" 2-425	"
126	" 2-423	"
127	" 2-426	"
128	" 2-429	"
129	" 2-429	共同住宅
130	" 2-439	研究所
131	上丸子天神町 340	個人住宅
132	" 340	倉庫
133	" 340	共同住宅
134	" 356	個人住宅
135	" 359	"
136	" 376	"
137	" 359	共同住宅
138	" 350	個人住宅
139	" 333	"
140	" 333	"
141	" 313	"
142	" 314	"
143	" 309	"
144	" 311	共同住宅
145	" 302	"
146	" 301	町内会館
147	" 302	個人住宅
148	" 376	"
149	" 373	"
150	" 372	共同住宅
151	" 362	個人住宅
152	" 301	"
153	" 303	"
154	" 304	"
155	" 74	共同住宅
156	" 68	個人住宅
157	" 50	共同住宅
158	" 50	"
159	小杉陣屋町 1-343	個人住宅
160	小杉町 1-403	共同住宅

(注) 「場所」はすべて川崎市中原区である。

思われる。ことに、川崎北部の丘陵地山林を開発し、ここ10年位の間にできた新興住宅地（麻生区千代ヶ丘、王禅寺など）では全く見られないのも、同様な理由と考えられる。

b. 近くに豊富なエサの供給地があること

小杉の町の北側は、広い河川敷をともなう多摩川と、大きな池のある公園である。これは溝ノ口でも、稲田堤でも同様である。古くからの住宅の密集している場所があっても、近くに自然が広く残っていないような、多摩川から離れた幸区、川崎区に意外に多くないのは、エサの問題もあるように考えられる。中・下流のやや富栄養化した河川と河原からの昆虫の発生が、このアブラコウモリの餌の供給源になって、小杉のような高密度な分布をもたらすものと考えられる。その点では、最近川崎市の西域を流れる鶴見川の中下流地域の横浜市の綱島辺でも、アブラコウモリの密度の高い分布が報じられているのは興味深いものがある。

以下、次報

（峯岸）